

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
環境都市系事務室内
平成20年8月

第22号

会長挨拶

建設会会長
下岡 吉治
昭和三十三年卒



建設会会員の皆様におかれましては益々御清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

日頃は何かと建設会にご協力願ひまして誠に有り難うございます。本年は総会の年、全国十八支部にて賑々しくお集まりの事と拝察します。

今年三月ご卒業された同志は二百六十一名、来る年二十一年三月ご卒業予定者は二百八十一名との事、全国で一万一千名強を有する立派な組織となりました事、誠に同慶の至りでございます。そんな中に於いて、微力な私に

対し何かとご協力を戴き心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

さて、本年は予てより大きな心配事、地球の「温暖化」についての活字が取り分け「生活」や「健康」に及ぼす影響、イコール「水資源」「森林」「農業」各「沿岸域」への被害に対する大きさが現実となつて、あの「ミャンマー」のサイクロンや、多数の人命を奪い次々と家を破壊した中国大地震の発生「我が国は大丈夫かなあと想ひきや、六月十四日朝に岩手・宮城・内陸地震発生、当地の先輩や同志

に對し、心より哀悼の意を捧げて一日も早い復興を願うところでございます。

此の様な状況を察する時、危機への対処として平時から非常時への備えが痛感させられる。人如ではない、我々は其の時の先兵なのだ。さて、これからの大問題「二酸化炭素(CO₂)問題」大きな問題が加速してきた。

又、其の点とは申せ「車」も初めの減少、主要国で日本が初めてとなる可能性もあるとの事。話題は別だが、我々互に「攻めの立命館」で学んだ戦略。生かそう環境都市系、これから出番だ。此の円高、資源高、米国景気減速の「三重苦」の逆風に挑む今こそ磨き築いた基盤(技術)を更に研磨して乗り切らねば。

又、予てより待望していた(仮称)立命館大学技術士会の設立について賛否両論あるう事と存じますが、

もう既に十校(東京工業大学・日本大学・早稲田大学・武蔵工業大学・東京理科大学・中央大学・千葉工業大学・工学院大学・東北大学・大阪工業大学)が機関誌「技術士」の掲載を最近の設立予定校は名城大学・芝浦工業大学・名古屋工業大学・慶応義塾大学の四校で、遅きに失してはと本年三月より児島副総長、坂根理工学部長、志垣教育学部次長迄に設立準備会と共に行動をし、遅く共、今期中にメドをと考えますのでご理解下さい。

又、近年立命館においても建設系学科卒業生の技術士補の「JABEE認定者」がかなり増えており、全国主要の理工学部を持つ大学(東京工大・日大・早稲田・武蔵工大・東京理科大・中央・工大等)では後輩の現役学生に対する技術士試験の受験指導や実践的な技術理論の講義など様々な事で産学連携活動がOB技術士会設

立への気運が高まり、昨年秋から建設会会員有志技術士による設立準備会が発足し、児島副総長、坂根理工学部長、志垣教育学部次長を始め建設、機械、電気の理工系同窓会の学内幹事、先生方への広報活動が活発に行われ、その気運も高まり技術士の五割程度を占める建設系部門の技術士の多くを会員に持つ建設会では機会ある如に設立に向けご支援を申し上げている処であります。

建設会会員諸兄には待ち遠しいことと存じますが是非ご賛同頂きたいと思っております。

どうぞ前にも申ししております通り各、年代如に智恵した者同志一日も早く前述した十校に続いて「技術士会」の設立を願ひ、明るく強く生きられる各皆さんをご期待申し上げ日々健康に留意され、益々のご活躍とご健闘をご祈念してご挨拶とします。

BKC環境都市学系の近況

環境都市学系 学系長
建築都市デザイン学科

平尾 和洋 教授



建設会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また日ごころは当会の運営に一方ならぬご協力を賜り、御礼申し上げます。

○八年度もスタートしてはや数ヶ月が経ちました。今年も学系では二百五十名以上の一回生を迎え、新たな気持ちで教育・研究活動を始めています。本稿ではBKC環境都市学系の近況について、主なトピックスをこ

報告申し上げたいと思います。

まず教員・スタッフ関係では、○八年三月を持ちまして、長年学系の教育・研究に携わってこられた伊藤満教授、ならびに村橋正武教授が定年退職されました。また二〇〇四年より都市システム工学科が中心となつて推進して参りました二十一世紀COE「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」が五年の研究期間を終了しました。

一方、新しい教員として○八年度四月より、都市システム工学科に里深好文教授(水工分野)と大窪健之教授(防災分野)が、立命館グローバル・イノベーション研究機構に鈴木祥之教授(構造分野)がそれぞれ着任されております。立命館グローバル・イノベーション機構とは、別名「R-GIRO(アール・ジャイロ)」と呼ばれ、COE終了を期に、今後とも異分野連携による総合的な研究を行っていく母体機関として、立命館の研究組織として新たに設立されたものです。さらに環境システム工学科では、BKCの文理融合カリキュラム「環境・デザイン・インスティテュート」をベースとしながら、「琵琶湖で学ぶMOTTA IN AI

共生学」をキーワードとした教育の取り組みを昨年度より始めております。これは文部科学省が競争的資金として公募している現代GP(平成十九年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム)のうち、「持続可能な社会につながる環境教育の推進」分野における選定をうけて始められたものです。この現代GP採択に伴い、学系には銭学鵬講師(計画分野)が新たに着任されました。

○八年度の学系活動関連では、国際的に卓越した教育研究拠点形成のための重点的支援プログラムである「グローバルCOE」採択に向けての取り組みが目下行われています。またJABEE E(日本技術者教育認定機構)の

関連では、昨年度の都市システム工学科にひきつづき本年度は環境システム工学科が、五年に一度の認定継続審査を受ける運びとなっております。また建築都市デザイン学科では、建築基準法・建築士法の一部改正に伴う建築士受験資格の認定校の見直し作業が進められる予定です。

以上が簡単ですが学系近況です。本年度は建設会の総会にもあたる年となります。会員の皆様方が、キャンパスに足を運ばれ、後輩である在校生や、われわれ教員一同とご交流いただけることを心待ちにしております。最後になりましたが、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

会員の声

生みの楽しみ



岐阜県支部副会長
川嶋智孝
昭和三十六年卒

平成十九年十月二十六日全国十八番目の支部として岐阜県建設会が誕生いたしました。

我々は男性なので所謂「生みの苦しみ」は経験できませんし、解りませんが同窓の皆さんの御理解と御協力によって生まれました。

しかし、設立総会開催までにはいくつもの苦しみや歴史もございましたが幸運でした。今回の誕生まではお隣の愛知県支部の愛知県衣笠会や三重県支部に大変お世話になりいろいろな情報を頂いていました。幸い岐阜県内には衣笠会の会長・役員経験者が数名お住まいになっていて今回の生みの助産師役を引き受けていただき大変助かり感謝しております。

なにしろ、衣笠会は質・量共に高く又歴史もあり、総会や研修会等も充実して大変参考にさせて頂いていただきました。

岐阜としては、二十数年前有志が集まり衣笠会の規約を参考にして旗揚げに努力をいたしました。が力不足で立ち消えとなってしまいました。

今回は、衣笠会会長経験者の可児幸彦様(昭四十二卒・四十四修)が幹事長となつて又、事務局長を引き受けていただいた野崎勝己様(昭五十二卒)にはお勤めの会社社長小川弘様(昭三十八卒・岐阜県校友会会長)の御理解による



設立総会 平成19年度 立命館大学岐阜県建設会

力強いコンビが誕生し、野村利樹様(昭三十五卒)を会長として多くの役員・卒業生のご協力のもと生まれました。会員には文系を卒業されて建設関係の役所や企業にお勤めの方々にも多数ご入会いただき感謝しております。当日は大学からは、志垣陽校友会事務局長・建設会本部からは下岡吉治会長・安藤太三愛知県衣笠会会長・川口貞久三重県支部会長・岐阜県校友会から折戸優児様のご出席を頂き、会員多数の参加のもと開催することが出来ました。交友会報「りつめい」NO231(2008 JANUARY)二十六Pの学部・学科校友会欄にも掲載いただきました。

私の学生時代の理工学部は衣笠山(測量実習・松茸・飲み代)の麓で木造二階建て校舎が主体の学園でしたが今の衣笠キャンパスは勿論・びわこ・くさつキャンパスも本等に立派な学園としての佇まいを持っています。新しく薬学部・生命科学部の新設、立命館小学校も開校して、さらに我岐阜市においては市立岐阜商業高等学校を閉校し中高一貫教育を目指した高等学校の開校準備が進められています。このように発展した立命館のように建設会岐阜県支部も皆様の心強い御協力により、生んだ赤子を大きく立派に育て上げ発展させたいと思っております。

末川博隆様と広小路の本校で卒業式に懇談をしながら一緒に写真を撮ったことを思い出していただきました。

人間万事塞翁が馬なし車



関東建設会
林 広敏
昭和三十七年卒

定年退職を機に、横浜の自宅を家内と長女に任せたまま、当地四万十川中流域の川畔に苦屋を建てて棲むようになって四年が経ちます。苦屋には四万十仙家(せんか)と名付けております。この四万十川には四十年以上前に支流を含めて何本かの橋を設計しております。この地で仙人生活をしながら、これまでの人生で負った心身の傷を癒しながら、いま、立命館での出来事以後のわが人生を重ねて振り返っているところです。元々の出身地は福岡県の小倉です。

今から五十年前、最近何かと話題を提供している昭和三十三年に入学しました。この年は悪名高き〇〇法が施行され、今日に続くスバル360、スーパーカブ、チキンラーメンが売り出され、東京タワーが完成し、一万円札が発行されてインフラでは関門国道トンネルが開通するというメモリアルな年でした。

入学と同時に体育会自動車部に入り、三十五年度の主将を務めました。このことがその後の人生に大きく影響することとなったのです。中でも昭和三十六年の六月から七月にかけて行われた「日本一週学生ラリー」に参画したことは、その最たるものとなりました。

朝日新聞社の後援と日産自動車のフルスポンサーで、全日本学生自動車連盟(以下学連)の主催で、全国の大学から選抜された三十五校が北海道と四国を除く地域を二十二日間で走破するラリーでした。出場校にはフルバードの新車が貸与されました。

学連の委員長と副委員長は関東と関西が交互に交代で担当する仕組みで、この年は副委員長を立命から出しておりました。そのため運営的な成功を第一に考え、私はフル審判として全コースを走行し、当時の道路事情をつぶさ

に観察する貴重な機会を得ました。終わった時、学校は既に夏休みに入っており、推薦されていた就職先に断られ、知己を頼りに探し出した「現場実習」は九州最西端の開拓道路の現場でした。約十八トンでつかいプルはあるもののオペレーターが不在で工事は遅れに遅れていました。他路線にかかり切りのオペレーターに自動車なら何でも運転出来るからと頼み込み、操縦を一日だけ習い下手ながらゴリ押しに作業を進めました。そのプルは、最近NHKプロジェクトXで取り上げられたコマツのD80そのものでした。

これが縁でPCを得意とするこの社に就職することになり、卒研PCの一期生であったため、ここで足掛け五年、もっぱら橋梁の設計に従事しました。が、またまた学校こそ違え自動車部OBからの誘いで、今度は創立間もない自動車ユーザー団体JAF(日本自動車連盟)に転職しました。草創期のJAFには関西の自動車部OBがかなりの数招集されていました。

昭和三十六年に全国の道路をつぶさに見てきたことや、同じ年に山科のある場所から既に完成していた名神高速の一部を眺め見て道路の将来像を心に描き、全国のいわゆる一級国道でさえ狭い上に未舗装であった現実が私の建設魂を揺さぶったのです。昭和三十七年土木の卒業アルバムにある未来に向かって伸びるが如き名神高速の写真は、僥倖ながら私の発案になるものです。因みに国道一号線が一応の整備をみたのが昭和三十六年度で、名神の一部供用開始はそれより遙かに後の昭和昭和三十八年八月でした。

JAFではもっぱら道路整備の必要性を説き、道路財源確保の活動に邁進しました。おかげで〇三年と〇四年には参議院の国土交通部会で参考人として意見を開陳する機会を与えられました。間もなく道路バッシングの勢いもつて道路特定財源が一般化されるようですが、その昔から真に道路が不要だと思っている人は少なく安定的に確保されている財源への妬み心にこそ真因があります。少なくとも私の在任中

事務局より お知らせ

■会員登録データ

立命館大学建設会会員の皆様の名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」文書上段に記載されているデータをご確認いただき、修正や変更がございましたら8月末日までに建設会事務局までご連絡下さい。

また、今年12月初旬に「平成20年度版 建設会会員名簿」を発行予定です。

会員名簿は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきます(2年に1度の発行ですので、平成19年度、20年度分の会費納入者、ならびに終身会員に送付させていただきます)。

なお、平成19年度分の会費をまだお納めでない方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(平成19・20年度分:6,000円)を納入いただきますと、発行と同時に名簿をお送り致します。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会皆様は皆様の年会費で運営されています。2008年度会費のご納入をお願い致します(年会費:3,000円)。

また、会費ご納入につきましては「郵便局の自動振替システム」をご利用いただくこともできます。申込み手続きは簡単ですので、すでに多数の会員の方にご利用いただき好評をいただいております。お申込みの際には、取扱郵便局「草津若草郵便局(Tel: 077-567-4050 FAX: 077-567-4120)」へ申込書の送付依頼書(様式適宜・住所氏名を記載)をFAXにてお送り下さい。毎年10月1日に会員様の郵便貯金口座から年会費が自動引き落としされます(8月末以降のお申込みは、翌年10月1日からとなります)。詳細については、郵便局から送られてくる申込書に同封されます。

■第14回建設会総会・70周年記念行事・懇親会のお知らせ

本年10月11日京都タワーホテルに於いて、第14回建設会総会・特別講演会・懇親会を開催致します。詳細は別紙をご覧ください。

は守り通しました。
この五十年間で道路整備の伸展と相
まってわが国経済が大躍進したことは
世界が認める驚異なものです。そしてわ
が現役時代がここに重なることに誇り
を感じます。

福岡県支部雑感



福岡県支部
野里栄照

昭和四十七年卒

一、建設会福岡県支部の紹介

先輩方の大いなる努力により維持さ
れてきました建設会福岡県支部は、今
年は三十八年目となります。平成十九
年度からの支部長は松藤泰輔氏(昭和
五十一年卒、現在、福岡県土木部道
路建設課課長)、会員数約六十名、毎
年二十〜三十人が集う支部です。平成
十八年度までの支部長は播谷敏氏
(昭和四十一年卒)でした。活動とし
ましては年一回の支部総会と親睦ゴル
フ、校友会参加等で、最近ではほぼ毎
年入会者があり、女性支部員も増えて
います。また、県、市の若手職員が増加し
、今後期待できる頼もしい支部となっ
ています。ただ若手支部員が、毎年継続
しての参加が少ないことから、支部と
しての魅力の向上も痛感されます。

二、九州の建設事業の状況

九州は面積、人口、公共事業費とも
全国比で一割と平均的なものの、農業
算出額、素材生産量、鋼船生産量、集
積回路は二割を越えています。九州の
建設業の生産額は、六年連続減少を記
録し、九州のGDPに占める比率も
十から六%と大幅に低下しています。
とはいえ、公共投資依存度は北海道に
次いで七〇%と全国平均の四・七%を
大きく上回っています。このため、日
本の政府債務が一、一〇兆円を越え
るともいわれる中、地方では財政基盤
が弱いため、国の財政状況の悪化の影
響をまともに受けています。橋が崩落
したアメリカ、日本でも同様な事故が
ありましたが、国民の批判の中、在

来型の公共事業はもはやありえず、少
ない事業費で如何に良好なインフラを
整備し、維持管理していくかが課題と
なっています。

三、この社会での生き残り方

若年の方を対象として、この厳しい
社会において、これから生き残りつて
いくために個人(建設コンサルタンツ、
建設会社勤務を想定)として何をすれ
ば良いのかを問われた時に考えられる
のは、左記のようなことではないで
しょうか。

a. 良好なコミュニケーション・他人

との良好なコミュニケーションは、
生活する上にも、仕事をする上にも
欠かせません。お互いの立場を思っ
ての交流が大事です。また、仕事
を楽しむ意識も大事です。業務で
は色々な苦労、ストレスにさらさ
れていると思いますが、お休みの
日には運動により、精神的なスト
レス解消が可能で、明日からの仕
事に対する意欲も湧いてきます。

b. 技術力の向上・私達は技術を売っ

て、生活の糧を得ています。これ
れを如何に高く売れるかが課題で
す。その為には、常に学習が必要
で、CPDもその一つです。社会
が求めていることが何であるか、
これに応える事が求められています。
また、技術士、土木施工管理
技士に代表される公的資格がない
と、プロポザルに応募することが
が実質的にできなくなっています。

c. コンプライアンスの遵守・永年の

業界内の馴れ合いによる法律を無
視しての商売はもう成り立ちませ
ん。常にコンプライアンスを遵守
することが必要です。

最近思うこと



広島県支部支部長
藤岡謙治

昭和四十八年卒

最近、はまり込んでいるものがある。
デジタルカメラ。以前は、フイ



ルムの一眼レフを持っていて、それな
りに楽しんでいたが、現像が面倒なの
と、絞リやシャッター速度を変えて撮
影するのが、現像するとあまり面白
くない。もちろん、自身の腕に決定
的な問題があるのだが、現像する方
も、なるべく良い写真にしようと暗く
写った写真を調整して明るくしてい
るのだろう。結果、どの写真も同じよ
うな写真となってしまう。それを解決
してくれるのがデジタルカメラだ。マ
ニユアルモードで絞リを変えるとモ
ターにはつきりとその違いがでる。結
局、一眼レフは売ってしまった。なん
でも高く買いますというあるリサイク
ルショップに持っていき二万円だと
いう。ウハ、ウハ！で、新たにキャ
ンパワーショットG9を買ってしまった。
一眼レフのデジタルカメラが欲し
かったのだが、金額が高いのと望遠レ
ンズの交換が面倒で、そこまで必要
のかと考えると、G9で十分という気
がした。G9は、割りと簡単な操作で
マニュアルモードが楽しめる。これひ
とつで三十五呷から三〇〇呷くらい
の望遠も楽しめる。こうして撮った
写真を、パソコンに取り込んでカレン
ターやCDのカバーを作る。おかげで
家のなかにはカレンダーがあふれてい
る。CDは好きな曲をCD-Rに取り込み、
カバーを手作りの写真でタイトルや作
曲家や演奏者の名前などをいろいろデ
ザインで仕上げる。最近の傑作は、私
の住んでいる街の少し洒落た家や通り
をデザインしたものだ。曲は、ヨーロ
ピアン・ジャズ・トリオから選曲した。
なかなか評判も良いようだ。問題は、
パソコン。もう少し良いものを買って

おくべきだったと後悔している。速度
が遅い、音が悪い！後悔、先に立た
ず！

私は、県職員として長年下水道事業
に携わってきた。ナショナルミニマム
としての污水处理システムは、すべて
の国民が享受することのできる施設で
なければならず、集合処理である下水
道は、その中でも根幹となる施設であ
る。単独処理との役割分担をすること
によって、早急に、経済的、効率的に
事業実施し、污水处理普及率100%を達
成しなければならぬ。

また、下水道からでているエネル

ギー、下水の持つ温度、汚泥消化によ
り発生するメタンガス、汚泥に含まれ
る有機的なエネルギー、Pなどの有
効利用と処理処分についてなど、あ
らゆる面から透視性を確保し、説明
責任を果たさねばならない。「Think
Global, Act Locally」アジェンダ21に
おけるアピールは、もっと強くなる
ければいけない。もっと切実なもの
として、われわれは、今できることを
ひとり、ひとりが取り組んでいく必要
がある。それは、あらゆる分野で、あ
らゆる人々にとって必要なことであり、
それは仕事の内容にかかわらず、今
を生きるものための努力である。現在
の地球温暖化等の影響を考えたとき
猶予はない。私も、定年まで後二年
を切った。日々色々考えながら県庁
生活の総仕上げをしたいと思ってい
る。

私は、このたびの役員改選により
広島県支部長をお受けした。責任の
重さを感じるとともに、この会の意
義と楽しさを若い人たちに伝えてい
きたいと思っている。先日開かれた
支部総会では、大学から建築都市
デザイン学科の八木康夫先生をお
迎えして楽しいひと時を過ごさ
せていただいた。そのときの先生
の言葉が今も厳しく胸に突き刺
さっている。先生曰く「あなた
たちは、この建設会以外で付き合
うことがありませんか？」これは、
的を射た言葉であったと思う。

なぜ、この会が必要で、なぜ、毎年
集まり話をし、名刺を交換している
か？場当たりに希薄な人間関係の中

で生きてきた私が、こんなことは、言
えるはずもないのだが、若い人
たちは、「なるべく早い時期に自分の
一生のデッサン、脚本、コンテなど
を書いておき、その歳、その歳で肉
付けしていく」と言いたい、また「
後悔は、先に立たず」とも。
(写真は本文と関係はなく、筆者が
三十三年間、毎月、山歩きをして
いる今年五月の写真)

京都支部事務局にて



京都支部事務局次長
松本 機

昭和六十一年卒

建設会員の皆様におかれましては益々
のご健勝のことと御慶び申し上げます。
私は、平成十八年一月から京都支部
事務局次長をさせて頂いています。今
もまだ、諸先輩方の顔と名前を早く覚
えるように努めながら事務局の運営に
あたっています。

昨年の秋には、京都タワーホテルに
て京都支部の第十六回総会(平成十九
年十月二十七日)のお手伝いをさせて頂
きました。総会の後、立命館大学
都市システム工学科 深川 良一教授
による講演会、懇親会と続きましたが、
特に、懇親会の応援団による校歌・応
援歌の演奏の後に、昭和三十三年卒の
諸先輩方が壇壇に上がってグレート
立命?を誇らしく歌う姿を見て、いた
く感動したのを今でも覚えています。
総会の参加者には、私の卒業生は少
なく、今後、どのようにすれば参加者
が増え楽しいひと時を過ごして貰
えるか、また、財政をどう切り回し
すれば活気のある運営を行えるか、
課題を一つ一つ解決していかなば
なりません。微力ながら建設会を支
えるように奮闘する積もりでありま
すので今後ともよろしく願います。
最後に立命館と建設会会員の益々
の発展をお祈り申し上げます。

ファクトファイブ ディングと大局観



客員教授
大阪工業大学教授
リエンセンター長
村橋正武

十四年間本学で教育研究に従事して
きましたが、大変充実した期間でした。
建設会の皆様をはじめ、学生諸君や
教職員の皆様方に御礼を申し上げます。
この間、常に学生諸君に言い聞かせ
るとともに、自戒の念を持って嘸も
締めてきた言葉に「ファクトファイブ
ディングの姿勢に立ち、大局観を形成
すること」があります。

左記は、今から約十年前の建設会学
生部会報第七号に掲載した拙文です。
建設会の賢兄・賢姉の皆様には自明
のことでしょうが、今もって小生が最
も大切にしている考え方でここに
掲載させて頂きます。

今から二十年前の一九七九年、わが
国で初めて先進国首脳会議(サミット)
が開催された。わが国が経済大国と
しての実力に加え、国際政治・外交の舞
台でも重要な役割を担うとしてクロ
ズアップされた丁度その時EC事務局
(今のEU)の対日批判秘密文書が明
らかになった。現在の学生諸君は到底
知らないであろうが、この中で日本
人を称して「兎小屋に住む仕事中毒の
日本人 workaholics in rabbit hutch」と
いう言葉が使われた。これに対し殆ど
の日本人が、幾分かは事実であること
を認めつつも、一様に憤りの気持を抱
き、かつ激しく抗議した経験がある。
欧州人の事実認識の低さと先入観に基
づく対日誤解の実態を指摘するととも
に、積極的に事実を伝達すべく世論が
沸き立ったのであった。もちろん一部
の欧州人の誤解に過ぎないにしても、
一万km離れた日本と欧州は、歴史、民
族、文化、経済事情が異なることから
一向にイメージギャップが解消しない
ことは今日でも同じである。
話は一転するが、現在の日本社会は
新世紀を前にして、構造的な大転換を

らねばならない時期にある。総人口のピークアウト、経済成長の低下、高齢化の進行、さらには地球環境の悪化等に対応し、どのようにして長期的に安定した社会を築くかである。とりわけ我々の分野については、社会資本整備のあり方、環境への総合的取り組み等をめぐって、新しい価値基準に基づく社会経済システムを構築しなければならぬ。この中であって次世代を担う学生諸君については、「ファクトリアインディングの姿勢と大局観の形成」に努めてもらいたいと念願する。

第一に、「一人前の技術者、研究者として自立するには、自然や社会の本質について正確な事実認識を行う目を養ってもらいたい」。事実を正確に把握し、解釈することが出来なければ、すべての理論も実践も砂上の楼閣となり、問題を解決することは出来ない。これは易しそうで大変難しいことである。先のECの話題は、欧州人として最も知的で国際感覚に優れているECの国際公務員ですら、明らかな事実認識をしていないのである。若い学生諸君は自然や社会を澄んだ目で見る力を持っているはずである。先入観なく自らの五感で事実を正確に捉え判断すること、そのことに努めてもらいたい。第二に、「社会動向についての自らの大局観を醸成してもらいたい」。社会は激動しており、工学系分野もこの社会の動向と無縁ではない。学生諸君の視野には様々な社会の動向が目に入らないかもしれないが、先のファクトリアインディングの姿勢にたつて、小さくは自分を取り巻く環境、空間からスタートし、徐々に視野を広めて社会の動きを捉え、今何が起きているか、将来はどうなるかについての的確な時代認識を形成してもらいたい。これも大変難しいことである。しかし日頃の生活を通して形成することが出来る。一つは、大学では受動的姿勢で学ぶだけでなく、例えば講義を批判的に捉え自らの問題意識を醸成することである。一つ目は、友人、先輩、後輩等と大いに議論することである。テーマは何でも良い。興味を引く

ことからはじめ、少しづつ社会との繋がりを持つ側面に話題を展開することである。三つ目は、本を読んだり、新聞雑誌、インターネット等のメディアを活用することである。自分の見解を作るには、それを支える基礎的知識が必要である。これを取得するには、それに係る情報と価値観を吸収しなければならぬ。

これらの行為により、豊かな人間性を涵養し、社会の動きについての幅広い知識と共有感覚を持てば、鋭敏な時代感覚を養うことが出来る。そして的確な時代認識による見解を持つことが出来る。これを備えた人材が一人でも多く育って欲しいと念願している。

二〇〇八年度 小集団科目現場見学会

都市システム工学科
尼崎省一

本学理工学部では、従来から、新入生教育の一環として小集団科目の中で工場見学を実施してきた。環境都市系では、理工学部他学科と異なり、工場見学は教育の趣旨に合わないとして工事現場ないしは建設施設の見学を半日程度の行程で行ってきた。ここ数年、公共投資抑制のありを受けてか、建設工事が少なくなり、びわこ草津キャンパス(BKC)から半日程度の行程で見学できる工事現場を探すのに苦労してきた。本年度は滋賀県東部振興局甲賀事務所ならびに滋賀県環境事業公社の協力を得て、都市システム工学科三クラスおよび環境システム工学科二クラスの現場見学会を六月二日(月)午後を実施した。

見学会所は、産業廃棄物管理型最終処分場のクリーンセンター滋賀ならびに新名神甲南インターチェンジ建設工事現場である。クリーンセンター滋賀は産業廃棄物処理特定施設整備法による環境大臣の認定を受けた特定施設として設置され、本年三月完成、今秋開業予定の施設であり、甲南インターチェンジは平成十三年に創設された「地域活性化インターチェンジ制度」



甲南インターチェンジ工事現場



クリーンセンター滋賀：浸出水処理場内での説明

を活用して滋賀県が建設しているインターチェンジである。なお、この制度を利用したインターチェンジ建設は、国内で二番目のことであった。小集団クラス毎にバスをチャーターして、BKCキャンパスに隣接した新名神草津田上ICから新名神高速道路を利用してほぼ一時間でクリーンセンター滋賀に到着、一時間程度の見学をした。続いて、新名神甲賀土山ICから甲南PAに行き、甲南PAから甲南インターチェンジ建設工事現場の見学を行った。

この日は、生憎、小雨状態であったため駆け足状態の見学になったが、学生から提出された感想文によると、見学で得たものを将来に生かしたい、構造物の建設にあたって環境問題が重要である、新名神高速道路は名神高速道路よりもゆとりがあるように感じたなどの意見が多くあった。現場見学会でお世話になった滋賀県南部振興局甲賀事務所ならびに滋賀県環境事業公社クリーンセンター滋賀の関係各位に感謝して、報告とします。

文化遺産の地震被害調査

都市システム工学科
伊津野利行

六月十四日(土)の午前八時四十三分頃、岩手・宮城内陸地震が発生しました。最大で震度六強を記録し、大規模な土砂崩壊により山間部に大きな被害がありました。グローバルCOE「歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点」では、拠点リーダーの大窪健之教授(都市システム工学科)、酒匂一成研究員(総合理工学研究機構)と筆者・伊津野の三人で、六月二十五日、二十七日の三日間、主に岩手県における文化遺産等の地震被害について調査しました。

まず、中尊寺や毛越寺など平泉の寺院でヒアリングを行いました。石灯籠や位牌の転倒はありましたが、構造物の被害は土壁のひび割れ程度の軽微なものでした。平泉町文化財センターの話では、町の中でも震源に近い山の方の寺院である程度の被害があったようですが、概ね被害は軽微だったとのこと。次に一関市において、骨寺村荘園遺跡の調査を行いました。ここは、奥州藤原氏の時代に中尊寺の所領だった場所で、中世の村落や荘園の様子がよく

グローバルCOEの採択

文部科学省のグローバルCOEプログラムにおいて、環境都市学系を中心として申請しました『歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点』が採択を受けました。拠点リーダーは都市システム工学科の大窪健之教授です。グローバルCOEプログラムは、我が国の教育研究拠点を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図ることを目的としています。そのために、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力ある大学づくりを推進するというものです。

人を人たらしめているのは精神活動です。それを形に昇華して後世に伝える文化遺産は、人類にとってかけがえのないものであり、社会基盤の重要な構成要素です。世界の文化遺産はその保護制度が充実しつつある一方で、大規模災害を含めた災害からの防御は未だ極めて手薄な状況にあります。一方、災害科学の分野においても文化遺産を研究の対象とすることは極めてまれでした。21世紀COEプログラムに採択された『文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点』では、文理融合の体制を構築して、世界に先駆けて文化遺産防災学を創成しました。今回採択された『歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点』では、文化遺産とこれを取り巻く歴史都市を災害から守るための教育研究を推進し、その学理を国際規模で展開し、国内にとどまらず世界各地で文化遺産を災害から守るリーダーとなる人材を育成することを目的としています。

今後5年間、本研究拠点では環境都市学系を中心に幅広く研究教育を行ってまいりますので、皆様のご理解ご支援をお願いいたします。

保存されているため、平成十六年より国の史跡に指定されています。一関市教育委員会の許可を得て村の中に入る事ができ、駒形根神社、不動窟、慈恵塚、山王窟といった史跡の被害状況を調査しました。幸い、いずれも文化遺産としての価値を損なうような被害はありませんでした。しかし、史跡に到達するまでの道が崩落していたり、岩に亀裂が入っていたりと、観光客の安全確保には課題が残されています。文化遺産の防災を考える上で、文化遺産そのものの防災と減災、それに関わる人々の安全性確保、そして文化遺産を活用していく上で必要な対策と、全体を見据えた防災計画の重要性を再認識しました。

最後に、金ヶ崎町の城内諏訪小路地区の被害調査を行いました。ここは、北上川に面した台地に広がる地域で、近世に伊達領となって要害と呼ばれる武家屋敷がおかれました。小路にそって生垣や屋敷林などが美しい地域で、平成十三年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。ここでも建造物の被害は土壁にひびが入った程度のものでした。住人の方々も、二〇〇五年宮城県南部地震と比べて、揺れは今回の方がひどかったが、被害は非常に少なかったのではっきりとされていると話しておられました。

全般的に言えることですが、今回の地震では地震後の火事がほとんどなく、これが被害を最小限にとどめたものと考えられます。また、地震の最大加速度は震源地近傍で水平1G、鉛直4Gと大きかったのですが、卓越周期が〇・一秒程度だったため構造物にはほとんど影響を与えませんでした。一方、大規模な土砂災害を引き起こすトリガーになったことは考えられ、今後のさらなる調査研究が必要とす。

文化遺産を災害から守るということは、文化遺産を取り巻く周辺環境や住人を守った上で成り立つことです。全国各地の、そして世界各国の文化遺産を自然災害から守って後世に伝える現実的な対策を施すには、建設会員の皆さんの協力がぜひとも必要です。まだまだ課題は残されていますが、今回の地震被害を詳細に検討し、よりよい対応策を考えて行きたいと思っております。